CASBEE静岡

CASBEE建築（新築）2016年版 ver3.0対応

欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	(仮称)Live Casa 静岡吉野町計画	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点※/満点		取組み度	評価
”ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進（Global Warming）	3.5	/5		ふつう
”災害に強いしずおか”の形成（Disaster）	2.8	/5		がんばろう
”しずおかユニバーサルデザイン”の推進（Universal Design）	3.0	/5		ふつう
”緑化及び自然景観”の保全・回復（Nature）	3.0	/5		ふつう

※対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価　凡例	よい	ふつう	がんばろう
	4 点以上	3 点以上	3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号（①～）を示し記述してください。

内訳対応項目

“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進（Global Warming）　得点 3.5

■室内環境対策　（①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数）
③住宅部分の昼光率3.2%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくした。
④タイル貼の耐用年数は40年

Q−1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
Q−1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
		3.2	3.2.1	③	昼光制御
Q−2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔

■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上）
⑤外構緑化指数68%分の緑地・植栽を設け、生物環境を創出した。
⑥エントランス庇・庇となる上階部分で日陰をつくり、舗装面積を敷地の24%分に抑えることで、敷地内温熱環境の向上に配慮した。

Q−3	1			⑤	生物環境の保全と創出
	3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上

■エネルギー対策　（⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用）
⑨住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.94になるように一次エネルギーの消費を抑えた。

LR−1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
	2			⑧	自然エネルギー利用
	3			⑨	設備システムの高効率化
	4	4.1		⑩	モニタリング
		4.2		⑩	運用管理体制

■資源・マテリアル対策　（⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避）
⑪便器は、従来に比べて41%分の節水ができる節水型便器を使用し、節水に配慮した。
⑬断熱材は、ODP=0の材料を使用し、オゾン層を破壊しないようにした。

LR−2	1	1.1		⑪	節水
		1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
			1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
	2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減
			2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用
			2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
			2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
			2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
			2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
	3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
		3.2	3.2.1	⑬	消火剤
			3.2.2	⑬	断熱材
			3.2.3	⑬	冷媒

■敷地外環境対策　（⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善）
⑭ライフサイクルCO2排出率を、一般的な建物の96%となるよう設計した。
⑮地表対策面積65%になるように、緑地・低木・中高木を配置し、地表面から敷地外に及ぶ熱的影響を低減した。

LR−3	1			⑭	地球温暖化への配慮
	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善

“災害に強いしずおか”の形成（Disaster）　得点 2.8

■サービス性能対策　（⑯耐震・免震/⑰信頼性）
⑰電気設備、機械設備は、浸水の危険性がない。

Q−2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
			2.1.2	⑯	免震・制振性能
		2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
			2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
			2.4.3	⑰	電気設備
			2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
			2.4.5	⑰	通信・情報設備

“しずおかユニバーサルデザイン”の推進（Universal Design）　得点 3.0

■サービス性能対策　（⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり）
⑳階高は、2.96m～3.11mとし、階高に余裕をもたせた。

Q−2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
	3	3.1	3.1.1	⑳	階高のゆとり
			3.1.2	⑳	空間の形状・自由さ

■室外環境（敷地内）対策　（㉑地域性・アメニティへの配慮）
㉑駐輪場・駐車場をﾋﾟﾛﾃｨ部分に設置し、アプローチにエントランス庇を設けることで、建築物への出入りがしやすくなるように配慮した。

Q−3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上

“緑化及び自然景観”の保全・回復（Nature）　得点 3.0

■室外環境（敷地内）対策　（⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上）
⑤外構緑化指数68%分の緑地・植栽を設け、生物環境を創出した。
⑥エントランス庇・庇となる上階部分で日陰をつくり、舗装面積を敷地の24%分に抑えることで、敷地内温熱環境の向上に配慮した。

Q−3	1			⑤	生物環境の保全と創出
	2			㉒	まちなみ景観への配慮
	3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上

■敷地外環境対策　（⑮温熱環境悪化の改善）
⑮地表対策面積率65%になるように、緑地・低木・中高木を配置し、地表面から敷地外に及ぶ熱的影響を低減した。

LR−3	2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版　使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要

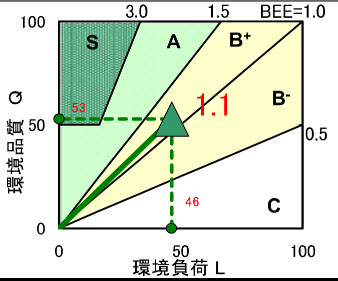
建物名称	(仮称)Live Casa 静岡吉野町計画	階数	地上12F
建設地	静岡県静岡市葵区吉野町1-6,1-7	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	66 人
地域区分	7地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年7月　予定	評価の実施日	2020年10月5日
敷地面積	446.74 ㎡	作成者	早野 真介
建築面積	243.70 ㎡	確認日	
延床面積	2,133.79 ㎡	確認者	

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.1 ★★★

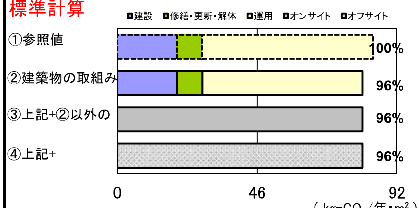
S: ★★★★★　A: ★★★★　B+: ★★★　B-: ★★　C: ★



2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

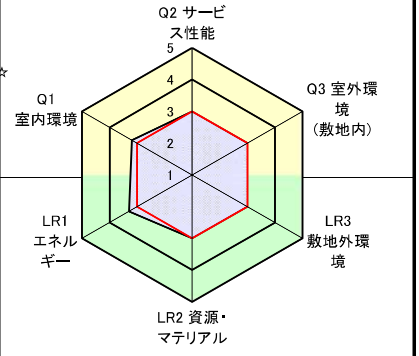
☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

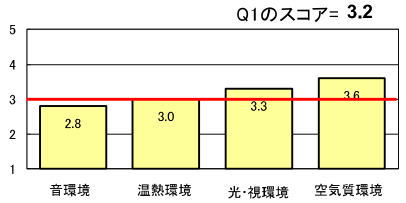
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



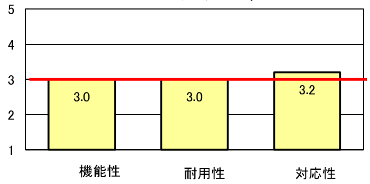
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　Q のスコア= 3.1

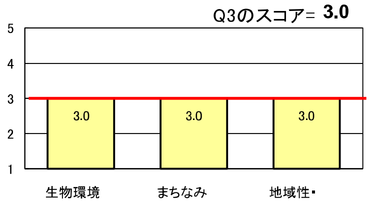
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.2



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.0

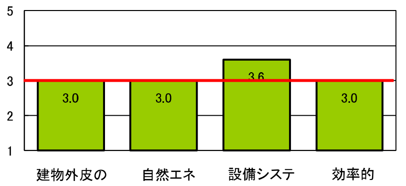


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 3.0

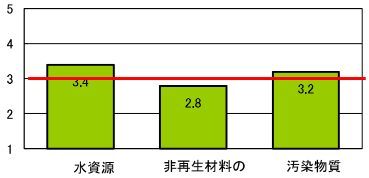


LR 環境負荷低減性　LR のスコア= 3.1

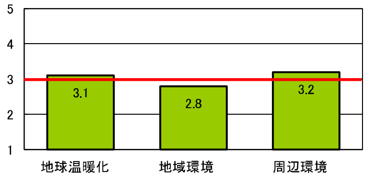
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.3



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.0



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.0



3 設計上の配慮事項

総合

これは、CASBEE静岡による評価である。

その他

特になし

Q1 室内環境

住宅部分の昼光率3.2%を確保し、上階バルコニー(庇の代用)やカーテンを用いることにより、室内において昼光を制御しやすくした。

Q2 サービス性能

階高は、2.96m～3.11mとし、階高に余裕をもたせた。
また、仕上は全てF☆☆☆☆(天井裏はF☆☆☆)、又は規制対象外の建材を使用し、換気の計画を行う等、十分なシックハウス対策を行った。

Q3 室外環境（敷地内）

駐輪場・駐車場をﾋﾟﾛﾃｨ部分に設置し、アプローチにエントランス庇を設けることで、雨天時等において建築物への出入りがしやすくなるようにした。
また、外構緑化指数68%分の緑地・植栽を設け、生物

LR1 エネルギー

住戸全般でLEDを使用する等の計画をし、BEI=0.94になるように一次エネルギーの消費を抑えた。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を使用し、従来の41%分の節水をした。また、断熱材はODP=0の建材を使用し、オゾン層に影響を及ぼさないようにした。

LR3 敷地外環境

地表対策面積率65%になるように、緑地・低木・中高木を配置し、地表面から敷地外に及ぶ熱的影響を低減した。
また、屋外に影響する照明について、光害対策ガイドラインの過半を満たし、広告物照明は行わないものとし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される